

政策体系	政策No.	1	政策名	快適で魅力あるまちづくり			施策主管課	建設政策課	
	施策No.	2	施策名	交通体系の充実	重点施策		施策主管課長名	川東 千尋	
施策関係課名		企画政策課、長寿・障害福祉課、観光課、建設施設管理課、土木課、建築指導課、都市計画課、教育総務課							
1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針									
<p>■交通の要衝として、今後も、交通量の増加が予想される。そのため、国道・県道については道路整備のための要望活動を行い、市道については年次計画により改良を進める。</p> <p>■公共交通施策については、関係機関と連携しながら、市民の利便性を高めるための改善に積極的に取り組む。</p>									
2 施策の目的と成果把握									
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		市域、市民							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	市域面積	km ²	見込み値	603.68	603.68	603.68	603.68	603.68	603.68
			実績値	603.68					
B	人口(県人口移動調査)+通勤・通学者数(直近の国勢調査)	人	見込み値	176,882	176,868	176,854	176,840	176,826	176,812
			実績値	173,982					
C			見込み値						
			実績値						
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		<p>便利に移動できる</p> <p>※「便利に移動できる」とは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通機関…多様な移動手段が確保される、路線や便数が確保される。 ・道路…渋滞が緩和される、幅員・歩道が確保される、道路の危険箇所(路肩の確保、急カーブ、未改良)が整備される、わかりやすくなる(標識) 							
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)							
		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	道路ネットワークの満足度(幹線道路) ※国道、県道、市道など大きな道路	%	成り行き値	62.0	62.8	63.0	63.0	63.0	63.0
			目標値	62.5	62.9	63.0	63.1	63.2	63.3
			実績値	65.4					
			達成率	105%					
			結果	◎					
B	道路ネットワークの満足度(生活道路) ※市道	%	成り行き値	59.7	66.7	66.7	66.7	66.7	67.0
			目標値	60.0	68.0	68.0	68.0	68.0	68.0
			実績値	67.2					
			達成率	112%					
			結果	◎					
C	鉄道の利用者 ※単位は、路線/便数/のべ利用者数 【便数:一日あたり】 【のべ利用者数:年間】	路線/便/千人	成り行き値	2/124/3,550	2/115/3,900	2/115/3,900	2/115/3,800	2/115/3,800	2/115/3,700
			目標値	2/124/3,700	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950
			実績値	2/116/3,906					
			達成率	100/94/106%					
			結果	○/△/◎					
D	航空の利用者 ※単位は、路線/便数/のべ利用者数 【路線:鹿児島空港】 【便数:国内線一日あたり、国際線一週間あたり】 【のべ利用者数:年間】	路線/便/千人	成り行き値	22/81/5,560	19/79/4,460	19/79/4,460	19/79/4,300	19/79/4,300	19/79/4,200
			目標値	24/84/6,000	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550
			実績値	19/84/4,783					
			達成率	79/100/80%					
			結果	△/○/△					
E	バス(路線・コミュニティ)の利用者 ※単位は、路線/便数/のべ利用者数 【便数:一日あたり】 【のべ利用者数:年間】	路線/便/千人	成り行き値	34/150/154	69/226/270	69/226/270	69/226/260	69/226/260	69/226/250
			目標値	73/384/442	68/229/290	68/229/290	68/229/290	68/229/290	68/229/290
			実績値	72/222/282					
			達成率	99/58/64%					
			結果	○/△/△					
⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)				⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方					
<p>A 道路ネットワークの満足度(幹線道路) ※総合計画進行管理に係る市民意識調査</p> <p>B 道路ネットワークの満足度(生活道路) ※総合計画進行管理に係る市民意識調査</p> <p>C 鉄道の利用者、D 航空の利用者、E バスの利用者 ※公共交通機関の路線/便数/利用者数 ※各事業者の実績データ ※バスに関しては、市が補助金交付あるいは委託している路線の利用者数</p>				A 「道路ネットワークの満足度(幹線道路)」については、道路を計画的に整備することにより、平成23年度の実績値62.7%から毎年度0.1ポイントの成果向上を目指す。					
				B 「道路ネットワークの満足度(生活道路)」については、道路整備を計画的に進めていくものの、路面劣化による要望などが増加する傾向にあることから、満足度の上昇は難しいと考えられるため、概ね現状維持に努める。					
				C 「鉄道の利用者」については、少子化により通学者数の減少が懸念されるが、鉄道を利用した観光商品の造成により、観光客等の増加を見込み、概ね現状維持に努める。					
				D 「航空の利用者」については、県と連携しながら空港アクセス道路や公共交通機関の整備・充実による利便性の向上を図ることで、観光客等の増加を見込み、平成23年度の実績値18路線/79便/4,462千人から概ね1路線/3便/90千人の増加を目指す。					
				E 「バスの利用者」については、少子高齢化・過疎化などに伴う利用者数の減少が懸念されるが、地域住民の行動特性に合わせたふれあいバスやデマンド交通などコミュニティバスの運行形態の改善やバス情報の周知などにより現状維持に努める。					

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 市内幹線道路の渋滞を解消するため、バイパス道路や地域の拠点施設を結ぶアクセス道路を整備する必要がある。
- 生活道路や老朽化による劣化・損傷が著しい道路を整備する必要がある。
- 橋梁の長寿命化については、特に早急な対応が求められている。
- 平成23年の九州新幹線鹿児島ルート全線開業を受け、引き続き観光客の誘致を図るため、市内各駅からの二次アクセスの整備や輸送力強化、利便性・快適性の向上を図る必要がある。
- 鹿児島空港の利用促進を図ることで、乗降客の増加に努める必要がある。
- 将来の貨物運送需要に対応するため、港湾整備を進めていく必要がある。
- 日常生活の交通移動手段の確保や観光客の利便性の向上のため、バス等の公共交通体系を整備する必要がある。
- ふれあいバス等の利用者が減少している中で、デマンド交通等の多様で、かつ効率的な交通移動手段を検討する必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ■市・県・国 ・道路整備率の向上促進(空港、駅等の拠点施設の整備促進及び拠点施設を結ぶ幹線道路の整備)、交通機関の乗客数、交通量調査、交通機関への意識調査などの実施、交通機関の整備計画、年次計画の策定。 ■市 ・公共交通機関の確保(コミュニティバス等の運行及び路線バス等の運行支援、隣接市町と連携した交通機関への整備運動)、市民に対する交通機関の利用促進、交通結節点などにおける環境整備(駐車場、バス停など)の実施。 ・市民、交通機関への乗客増加推進のための取組、各交通機関への充実を求める要望活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市民 ・交通機関の積極的な利用、道路等の清掃活動、やぶ払いなどの環境保全活動への協力。 ■公共交通機関 ・交通路線、便数の確保と安全運行。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 道路 ・合併後の市道整備の費用対効果による優先順位の見直し、国の制度、事業の見直しにより、市の道路整備の十分な財源確保が難しい状況である。
- 鉄道 ・高等学校通学区域の見直しに伴い、通学利用者の変動(増加、減少ともに)が予想される。
- ・日本初のクルーズトレイン「ななつ星in九州」が本市の駅を通行することになり、その反響として沿線の利用増加が予想される。
- バス ・交通基本法制定の動きなど交通弱者に対する施策が充実していくものと思われる。
- 航空 ・減少傾向にある乗客の増減(国内線の路線便数見直し、国際線の新規開拓、貨物便の増便)。
- 港湾 ・単人港外港の建設促進。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 道路整備の要望等は、主に各自治公民館を通じ、まちづくり計画書の中で提出される。
- 議会の一般質問でも、具体的な整備計画の質問がある。(例)幹線道路の整備をしてほしい。空港アクセス道路の整備対策をとるべき。
- 市民意識調査では、幅員が狭い、歩道が十分に確保されていない、渋滞している等の意見がある。
- より効率的なコミュニティバスの運行を求める意見が市民及び議会からある。
- 観光客からは、航空、バスの連絡をよくしてほしいという要望がある。

5 施策の現状

① 平成24年度施策の取組方針	② 平成24年度施策の取組方針の達成状況

③ 平成24年度施策の目標値と実績値の比較

目標達成 ◎ 105%以上
 目標をほぼ達成 ○ 95%~105%未満
 目標を未達成 △ 95%未満

平成24年度成果指標				結果
目標値	実績値	達成率		
A				
B				
C				
D				
E				

④ 平成24年度施策の成果指標の達成状況及び要因

--

⑤ 基本事業の 目標達成度 (平成24年度目標と 実績との比較)	○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成			
	①		④	
	②		⑤	
	③		⑥	

6 平成25年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)

- 市内幹線道路の渋滞を解消するため、バイパス道路の整備や地域の拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を計画的に行うとともに、国道・県道については、引き続き道路整備のための要望活動を行う。
- 生活道路については、維持管理や補修に努めるとともに、年次計画に基づいた改良を行う。
- 橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき補修を行う。
- 道路アダプト制度により、道路環境の保全及び美化に努める。
- 市民の日常生活の交通移動手段の確保や観光客等の利便性の向上のため、バス、鉄道等の公共交通体系の整備を行う。
- ふれあいバス等の利用率の低い路線については、デマンド交通等の効率的な交通移動手段を導入していく。
- 鹿児島空港の利用促進を図るため、乗降客の増に努める。

7 平成26年度に向けた施策の課題・方向性

- 市内幹線道路の渋滞解消のためのバイパス道路の整備や地域拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を行う。
- 生活道路については、年次計画に基づき改良や補修を行う。
- 橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、年次的に予防修繕を行う。
- 日常生活の移動手段の確保や観光客の利便性の向上を図るため、公共交通機関に対して路線数や運行便数の増加を働きかける。
- 航空については、現行路線の維持やチャーター便の確保に努める。
- 単人港外港の建設に向けて、継続して協議を進める。
- 地域住民の行動特性に合わせた、ふれあいバスやデマンド交通などコミュニティバスの運行形態の改善を図る。
- 民間バス会社との連携を密にして運行路線の維持に努める。
- 乗客の利便性向上に向けた検討・協議を行う。

基本事業No.	1-2-1	基本事業名	道路ネットワークの構築及び道路施設の保全	基本事業 主担当課	建設施設管理課 土木課、都市計画課
---------	-------	-------	----------------------	--------------	----------------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)

- 市内幹線道路の渋滞解消のためのバイパス道路の整備や地域拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を行う。
- 生活道路については、年次計画に基づき改良や補修に努める。
- 橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、年次的に予防修繕を行う。

②対象	市域、市民、道路の利用者	③意図	安全・快適に移動ができる
-----	--------------	-----	--------------

2 基本事業の指標等の推移

◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	改良率	%	道路現況調査 (規格改良済/実延長)	成り行き値	53.00	56.00	56.00	56.00	56.00	56.00
				目標値	57.00	57.00	57.00	58.00	58.00	59.00
				実績値						
				達成率						
				結果						
B	舗装率	%	道路整備実績	成り行き値	85.00	87.00	87.00	87.00	87.00	87.00
				目標値	93.00	88.00	88.00	89.00	89.00	90.00
				実績値						
				達成率						
				結果						
C	渋滞箇所数	箇所	主要幹線道路との交差点	成り行き値	10	8	8	8	8	8
				目標値	8	8	8	8	7	6
				実績値	9					
				達成率	88%					
				結果	○					
D	道路に関する苦情件数	件	苦情台帳	成り行き値		1,350	1,360	1,370	1,380	1,390
				目標値		1,290	1,290	1,290	1,290	1,290
				実績値	1,389					
				達成率						
				結果						
E	橋梁の修繕率	%	霧島市橋梁長寿命化修繕計画	成り行き値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
				目標値	1.0	2.0	4.0	6.0	8.0	10.0
				実績値	0.15					
				達成率	15%					
				結果	△					

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

- A、B 道路の改良率、舗装率についての目標設定は、生活道路及び橋梁の経年劣化を踏まえ、年度計画で市道の改良工事や舗装工事を行い、また、地域間交流を推進するため、長期計画により幹線道路、生活道路の整備を促進し、さらに道路標識の充実を図る計画である。
- C 渋滞箇所数(交差点)は、人口並びに交通量の増加がある中で、交差点等の改良工事を年度計画で実施し、解消する目標設定である。
- D 道路に関する苦情件数については、年々増加しており、今後は市民に願っているもの、市で対応するものなどについて協議を行いながら早めに対処することで現状水準に努める。
- E 橋梁の修繕率については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、修繕を行う。

4 平成24年度基本事業の取組方針

5 平成24年度基本事業の取組方針の達成状況

--	--

6 平成24年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

--

7 平成25年度基本事業の取組方針

8 平成26年度に向けた基本事業の課題・方向性

- 道路渋滞を緩和するため、道路の拡幅などの整備を行うとともに、国道・県道については、引き続き道路整備のための要望活動を行う。
 - 広域的な地域間交流を促進するため、幹線道路の整備を引き続き行う。
 - 生活道路については、年次計画に基づき改良や補修に努める。
 - 橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、年次的に予防修繕を行う。
- 市内幹線道路の渋滞解消のためのバイパス道路の整備や地域拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を行う。
 - 生活道路については、年次計画に基づき改良や補修を行う。
 - 橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、年次的に予防修繕を行う。

基本事業No.	1-2-2	基本事業名	鉄道・航空の路線確保及び港湾の整備促進	基本事業 主担当課	企画政策課、土木課 建設施設管理課
---------	-------	-------	---------------------	--------------	----------------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)

- 日常生活の移動手段の確保や観光客の利便性の向上を図るため、公共交通機関に対して路線数や運行便数の増加を働きかける。
- 鉄道については、平成23年の九州新幹線鹿児島ルート全線開業を受け、関係機関等との連携を図りながら、鉄道を利用した観光商品の造成など利用者の増加につながるような施策を展開する。
- 航空については、県や関係機関との連携を図りながら、国内のみならず海外への路線やチャーター便の確保に努める。
- 隼人港外港の建設に向けて、継続して協議を進める。

②対象	・鉄道、空港の利用者 ・港湾の利用者	③意図	利便性が確保できる
-----	-----------------------	-----	-----------

2 基本事業の指標等の推移

◎目標達成(105%以上)

○目標をほぼ達成(95%~105%未満)

△目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	鉄道の利用者	路線/ 便/ 千人	鉄道の路線数/便数/利用者数(千人)	成り行き値	2/124/3,500	2/115/3,900	2/115/3,900	2/115/3,800	2/115/3,800	2/115/3,700
				目標値	2/124/3,700	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950
				実績値	2/116/3,906					
				達成率	100/94/106%					
				結果	○/△/◎					
B	航空の利用者	路線/ 便/ 千人	航空の路線数/便数/利用者数(千人)	成り行き値	22/81/5,560	19/79/4,460	19/79/4,460	19/79/4,300	19/79/4,300	19/79/4,200
				目標値	24/84/6,000	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550
				実績値	19/84/4,783					
				達成率	79/100/80%					
				結果	△/○/△					
C	隼人港・福山港の利用数	隻数/ 千トン	入港隻数/取扱貨物量(千トン)	成り行き値	1,844/20	2,212/8	2,212/8	2,212/8	2,212/8	2,212/8
				目標値	1,844/20	2,212/8	2,212/8	2,212/8	2,212/8	2,212/8
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

- A 鉄道利用者については、少子化等により通学者数の減少が懸念されるが、鉄道を利用した観光商品の造成により観光客等の増加を見込み、現状を維持する。
- B 航空の利用者については、県や関係機関との連携を図りながら、国内のみならず海外への路線やチャーター便の確保に努める。
- C 福山港については、現在延命化の整備を進めている。隼人港外港改修事業については、県の財政健全化の取組の関連で、平成20年度以降休止の状態ではあるが、霧島地区の将来の貨物需要に対応するとともに災害緊急時における交通手段確保のためにも必要であるため、引き続き整備実現に向けた要望を行っていく。隼人港本港に関しては、現状の隻数でほぼ許容量に達しているため、これ以上の成果向上が期待できないため現状維持とする。

4 平成24年度基本事業の取組方針

5 平成24年度基本事業の取組方針の達成状況

--	--

6 平成24年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

--

7 平成25年度基本事業の取組方針

8 平成26年度に向けた基本事業の課題・方向性

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 日常生活の移動手段の確保や、観光客の利便性の向上のため、公共交通機関に対し、路線数や運行便数の増を働きかける。 ■ 鉄道については、平成23年の九州新幹線全線開業を受け、関係機関等との連携を図りながら、鉄道を利用した観光商品の造成など、利用者の増加につながるような施策を展開していく。 ■ 航空については、県や関係機関との連携を図りながら、国内のみならず海外への路線やチャーター便の確保に努める。 ■ 隼人港外港の建設促進に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 日常生活の移動手段の確保や観光客の利便性の向上を図るため、公共交通機関に対して路線数や運行便数の増加を働きかける。 ■ 航空については、現行路線の維持やチャーター便の確保に努める。 ■ 隼人港外港の建設に向けて、継続して協議を進める。 |
|---|---|

基本事業No.	1-2-3	基本事業名	バス輸送等の確保	基本事業 主担当課	企画政策課
---------	-------	-------	----------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)

地域住民の行動特性に合わせた、ふれあいバスやデマンド交通などコミュニティバスの運行形態の改善やバス情報の周知を図るほか、民間バス会社との連携を密にして運行路線維持に努め、乗客の利便性向上に向けた検討・協議を行う。

②対 象 バスの利用者

③意 図 利便性が確保できる

2 基本事業の指標等の推移

◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	バスの利用者	路線/ 便/ 千人	バスの路線数/便数/利用者数(千人)	成り行き値	34/150/154	69/226/270	69/226/270	69/226/260	69/226/260	69/226/250
				目標値	73/384/442	68/229/290	68/229/290	68/229/290	68/229/290	68/229/290
				実績値	72/222/282					
				達成率	99/58/64%					
				結果	○/△/△					
B				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
C				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
D				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A バスの利用者については、少子高齢化・過疎化などに伴い利用者数の減少が懸念されるが、地域住民の行動特性に合わせたコミュニティバスの運行形態の改善や路線バスを含むバス情報の周知等により利用促進を行い、現状維持に努める。

4 平成24年度基本事業の取組方針

5 平成24年度基本事業の取組方針の達成状況

--	--

6 平成24年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

--

7 平成25年度基本事業の取組方針

8 平成26年度に向けた基本事業の課題・方向性

地域住民の行動特性に合わせたコミュニティバスの運行形態の改善や、バス情報の周知を図るほか、民間バス会社との連携を密にして運行路線維持に努め、乗客の利便性向上に向けた検討・協議を行う。

- 地域住民の行動特性に合わせた、ふれあいバスやデマンド交通などコミュニティバスの運行形態の改善を図る。
- 民間バス会社との連携を密にして運行路線の維持に努める。
- 乗客の利便性向上に向けた検討・協議を行う。